

禅宗 曹洞宗

少林山 頼岳寺

住職 岸田 栽華
茅野市ちの 一七五三
TEL七二一三〇二七

「鷺湖禅林」参禅学道の間

高島藩初代藩主諏訪頼水の開基で、寛永八年(一六三一)、頼水が上州在封のときに参禅した曹洞宗白井雙林寺の十三世大通関徹を招聘して開山とした。本尊は



永明寺破却の際、救出された由緒ある釈迦如来(伝運慶・湛慶作)と頼岳寺本堂

頼水は

頼岳寺を諏訪氏の新しい菩提寺と改め、父永明寺殿と母理昌院殿の墓を永明寺墓地から移して廟所とした。廟所は平成二十九年二月九日、国の文化財として史跡指定された。

開山以来、歴代藩主の尊崇を受け、明治の廃藩以後は旧藩主忠誠からの寄進があった。

また、寛文五年(一六六五)、幕府の宗門改め開始以来、その檀信徒は郡内各地に広がり、末寺は郡内に十四ヶ寺を数えている。古くは修行寺として常に数十名の雲水が修



禅堂



永代供養納骨堂

行していたが、現在は「鷺湖禅林」の額を掲げて一般にも開放される参禅学道の間となっている。

年間行事

- ◎節分会豆まき 毎年二月の第一日曜日
- ◎花祭り大般若会 毎年五月十日
- ◎大施食会 毎年八月一日

肯心塾 ▼ 毎月四日午後五時から
坐禅会 ▼ 毎月一日から五日間 (十二〜二月は除く)

永代供養納骨堂分譲中

■お墓参りが出来ない人に代わって、あるいはお墓参りしてくれる人がいなくても、お寺が代わりに責任以て永代にわたり供養と管理をする納骨堂です。

高野山真言宗

白岩山 惣持院

住職 備前 宥寛
茅野市塚原二一八一二
TEL七二一六〇四九

心の癒しを求めて

四国八十八カ所遍路 御砂踏霊場の寺

諏訪三十三カ所観音霊場第十三番

本寺を真言宗談林仏法紹隆寺とする白岩山惣持院の開創は寛正三年(一四六二)と古く、村の寺として親しまれてきた。日本堂・庫裡は安永七年(一七七八)に焼失したため、寛政十二年(一八〇〇)に玉川中沢村の民家を移築して寺院としていた。

爾来二百年余の星霜を経て老朽化が進んだことに加え、生活様式の変遷に伴い仏事法要葬儀その他集会等を行うについて手狭になったことなどから、地域の人々の協力を得ながら寺檀が結集して、昭和五十年檀家組織結成以来の心願であった、茅野市の玄関口に相應しい荘厳の道場が竣工し、平成十四年六月二十三日を

とし盛大な落慶法要が営まれた。弘法大師空海が開いた四国八十八カ所霊場の移し霊場として諏訪に八十八カ所霊場が開かれたのは、文政年間(一八二〇年代)とされる、惣持院は諏訪霊場の第六十八番札所。因みに先住は昭和二十九年入山以来白岩観音守護に勤め、尊い結縁に依り彫刻の名手とうたわれた立川流一門代々の作品をメインに郷土の芸術家(清水多嘉示・矢崎虎夫)の作品を蒐集し、新装なった本堂の一隅に「ギャラリー宝珠閣」を開設して学び、癒し、楽しみの場として一般に公開している。問い合わせは同寺へ。

ギャラリー宝珠閣

茅野市塚原 惣持院内 要事前連絡

県宝白岩観音堂のある惣持院本堂に、立川流の置物・下絵、画像、根付など、他に茅野出身の彫刻家の作品などが展示されている。立川流の置物は約三十点あり、展示数に非常に貴重で稀少なものである。



茅野ガーデン&ギャラリーの家第5号立川流彫刻を中心とした祈りの造形美をご鑑賞下さい。